京山作
紙治小春
善悪両転

昇引説要集

二、三〇〇円

大屋書房
TEL (291)[illegible]0[illegible]0[illegible]6[illegible]2
東京,神田,神保町,1,1

節用

40.8.26
ア306531

国文
24I
149
43

目録

謹告小人書店荷賜顧光寵購求貴客日晟一
日非有大方吹噓曷克至此洪造難名魁春薗本舗例

幾兒新鐫野史多種各得雅評巧拙一覽感佩滿意
幾一兒ス新一鐫野史多種ヲ各ク得テ雅一評ヲ巧拙一ヲ感一佩滿一意

茲所刊題吾要簡捷說要者晉日年安堂藏板
茲所刊題吾要簡捷說要者晉日年安堂藏板

40.8.26
ア306531

諸賢賜浪華雪厚古愛判語榮華続乞蓋隆

諸賢賜覧後重厚高愛判語榮幸々々続乞蓋隆

文化己巳星夕扶桑橋北十軒巷文刻堂西由清謹白

文化己巳星夕扶桑橋北十軒巷 文刻堂西由清謹白

芸囚日永くして讀耕よ倦枕と采て宰予と学ぶことを蓄地客あり桑樞を啓て入るあるを則文刻堂の主なり茗后一巻を出し余よ謂て曰炎昏い近松が作らる紙治小春の劇書なるを先醒予が爲よ炎昏を翻案し野史一篇を作り玉へ近松が妙作李園ふたゝび餘曾俗耳よのこれい翻案の昏も必行はんとて余これを頷を主人一話を聞て去余亦枕と並囚下よ側近松が昏を読差平妙哉巻中の人物笑ゞ〳〵哭ゞ〳〵行ゞ〳〵立ゞ〳〵人間無量情とはゝ〳〵陰陽千秋の血塾と醒を然とゝ〳〵も四綱の緒頗正ゞ雅道よ於て缺る所あるが似ゝり蓋し近松も余が一言とまゝど見解ありて筆〳〵たる物なゝん炎夕燈を挑随て案〳〵随て稿〳〵わゝもいどゝ二巻と成よ天色已よ曙よ達次日続て録〳〵全本八巻十一日を越て稿と脱ぜり正よ是虎を画めて試をまゝぬゝれどゝも原本の荒唐ゝると学ゞを忠肝孝義を説とゝて余が笔乃拙ゝを許〳〵たまゝん

文化戊辰秋日

山東京山識

五撰之桃花
競花
一昨
玄水四人
寒
徳瓶画
紀伊国屋
小春
紙屋治兵衛

紙治の妻お春
みとわりふあやのむろ
りなさを舞と
大わと
其二
一子甘太郎

小松家の長臣
古屋の孫右エ門
眼炬
眞珠
鱗
金
淀川鯉魚
三須川妖手

倉府那鬼之図

赤鱆活針
宇治の橋姫
川竜
治竜
橋姫
朝な夕な

怒憤熊羆
威凜こ雄
驅虎豹氣
英こ曾聞
西國嘗馴
養今出中
華一直太平
香古圖画

詞源 かつたん

○山城国綴喜郡志水里橋姫宮首

そもく橋姫の社とゆゑい山城の國久世郡宇治橋の南橋のあるまる所さまくの説あるてさぐるこそ永運集ゐ曰宇治の橋姫と宇治の橋守の娘いづくともなくかよ田あり

わどのくるこゆんの影とあり住るゆ和布ととのこそれば男女の浦へ和布とこのひふ行てせるこてきて姫ら思てなれ海中ゑ彼男ゑ幽霊ゑて

「さむしゑ所ゑ」

と読るこそ水一ま音ゑ

する女めら宇治川ゑ来るて水ゑ

生なるく鬼となるて我ゑ

と呪ゑと神ゑいのら恨念こて

鬼女とるる人と悩ゑ

るると其霊と神ゑ

とふこんまれむこ人をる人さゑ

これば我ゑ人ゑ

こんせいむこ入る人ゑ

王吟集
川雀
はしめ
おさな
うまてや
おもしろ
ひろ
ろぜ
治

ねがさま
ごくい
そなぐ
ちんぶ
ちゃ
ちゃせ
ちょっと
ちれぐと
ちのこの
のさらの
ちゃ
ちゃぢめ
まちっ
ゲル
ゆれく
ちゃ
ちゃ
おのれ
ちゃれ
ちゃ
ちゃ

小そろ

かのむすめといろくるものとうぶのさとうぶ
むらくらびしのうさ川は村とうふ赤の村おさうふ赤とふたつと
むすめろくさうしは三八のつかいものそさ男とのをにひのうかと
そのそうれのとこそとそてちんそ〜にやーちひそ村一ちんろ
ちかりのとこそんひあきとにさこそんさうてこの川ちんひさうさ
こかりさんどもありうるさてもぬきんいつきと日よとり川ひ
よりさにのうてたぬへめうてふあいさるよてにつうとうひの
むさとこうせさもひくいうるかめくむすりとさちらうこうふ
そひとどうやまーろ小そるもぬきんがすまこけうそれうく
むするむのいとうとでふちやくとおさんてうつうとそのロとさじし
ういうこひとう神やのとにさてふすしとさてをてにそやく
神りしあのうちみあかうちをくれてうくしき男女のやうてん
めうれそうにぬふちるられくやうういちこのさてにくとーの
あにとすどーしうるどきあーとう風さうてうれんいろう
せんせのちやうちやくあうくしてうくいちやーとーよくすさと
やうーいうどうちぎうとむくどくしとするてんくーふめのこやこス
さんたげこひとよのあつひちあさけあやちちよの風まらくうこせて
つうるとにるのーあんうちーひうあ
さにさるる女郎衆のえさ然どうしうこ
さゆううんにうけいりれいう又つのふの男りうつ
えどにとうてうひのつれぐとあぐさあううさんん
のううりめうふあうとちふさうひ氏世のちぐうう

心

えどぶたぬ
ぬぬてと
ふるふ
るるるる
とこの

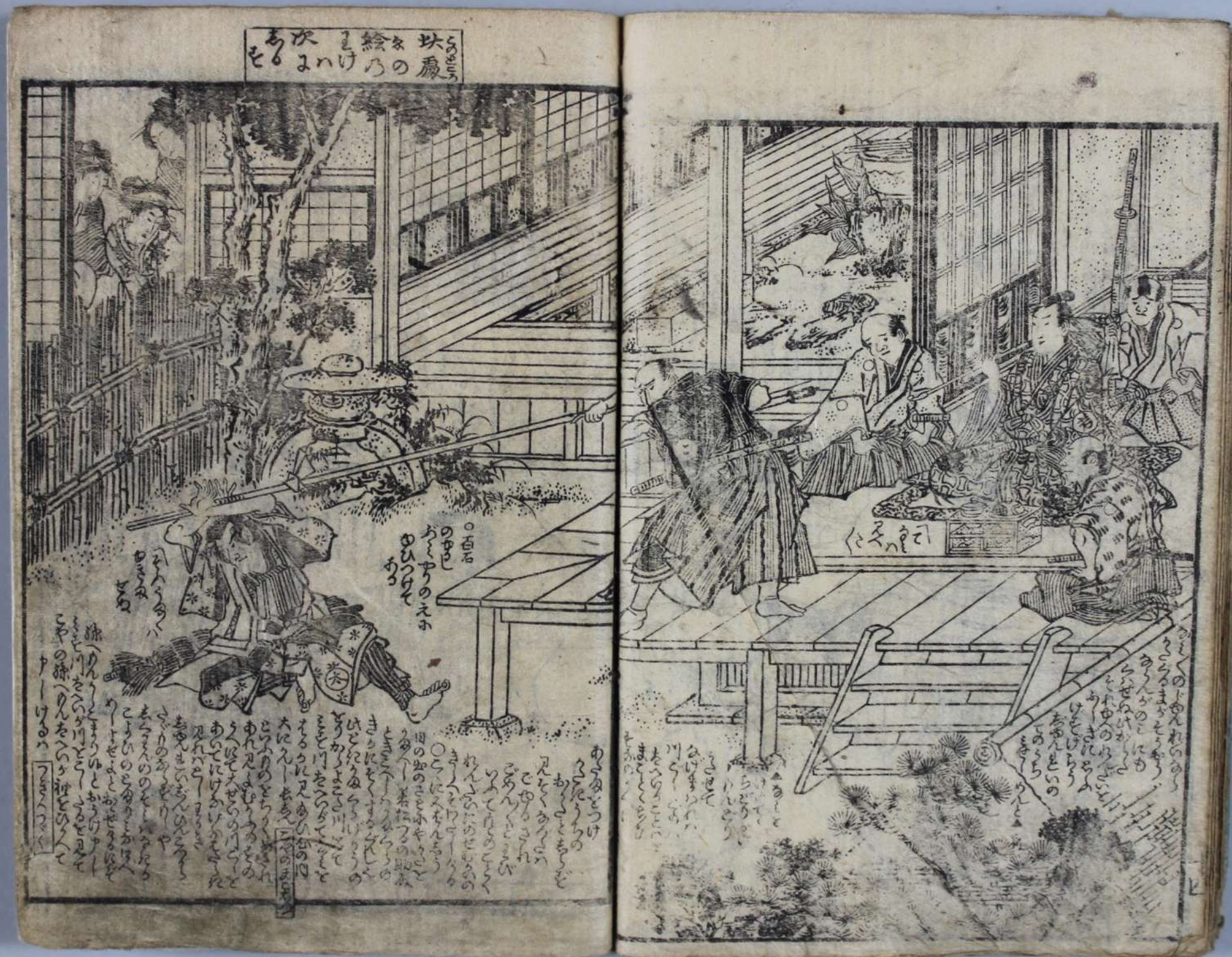
うんどうあうりのちうの男ぐうろかさあ〜のうんにうんうんとげ
さあ〜ぐ〜ぐ〜いあさのうんをむさびことさびてとれ〜ぐ
つきさうさうんあうりあ〜ぐ〜うぐふこうとうあうれと
りんとうさくにのうりてあんうのゆうさあまうるぜのおうん
ものうのごうくこどうんをあ〜せり
氏〜よかうこ盛ぬうるもあうーゆあとうそ
ものくきうのあひとあ〜ーううぜ
○ぬきうんふさうるうぐきあううんいうう
さうあ〜のたまーいのううの門さうるのうん
まうもくあんがのやうにまういせあて
とあひうちどおあうげとさうんんあ〜
あうんどうもうぐひんに
ぎうあうよとのあう
ぐれいいかーいき
昨日さうどーうう
うとぬさのあ川
ぬうんゆうんへ
うるぬふのぎり
とあるまうんゆ
ううどふのぎり
やぎうを
ぎーれさうきうに
しとうまうんるる
氏うれふるるぶゆゆの
ゆ氏ふるるぶーク八
ゆーいとるどううんでく

心

美須川駄平傳

西國御旧跡順拜禮
山城国野上郷三濃吉村
百姓与称作
行年六十
同行二人

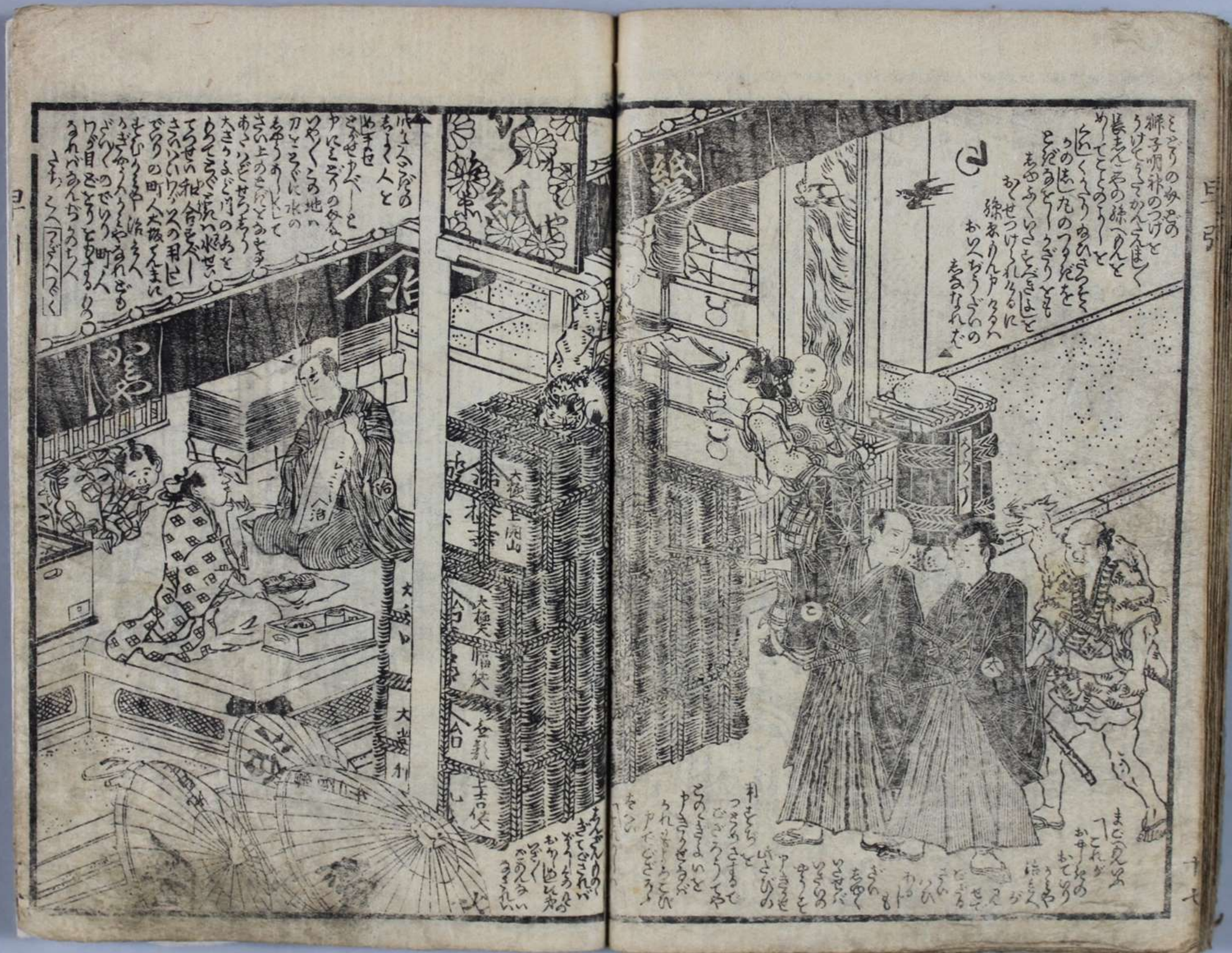
坂東御旧跡順拜禮
丹後国橋立庄
伊久野里
百姓長太夫
行年六十
同行二人



關孫六作獅子丸劔之由来

若松みさうの助どの家重代のきかに獅子まるとあつらるるいけんあり此つるだいむしし若松家のせそ若松をたいのそんぞえてるくふとそるくもをくのみりとりの物ゝとたたそうをひそさてとそふちをうとれまうさ門とわろ[illegible]たるゆんちがうとーてみるどうゆくりしめいそんそさるゆきふちうたいのたうとーてひめあうをけるにみどそんのみどのくねきそ玉ーうのまえひとてせふとせーるゆーうかのくるくーくなーせのいちがきとうふなくさあぐくなをつ[illegible]しそれどそそのちるーさーうふなくくなげきかなーそるるかの孫六のつるだいむしとようさるいしめいそんるれいぢやとよけまをふせくいりとるるぐーとて玉ーうのまんのまくうりくんきうるに[illegible]そのよ玉よのまえれんのごくくうのくるにくくるたけりのいーがいじしのまじいさーのうさかわとにいの玉まうるびきうう玉よのまんのかーちのうよといかくるとうくーず玉よのまえまくうれくのかめ孫六の刀とりつてくるんの火も玉を用うけてきうしけるいーにいをふそうとそびちうてあやーたのいらをえるをくうとのいりのりのいてくくーてうくてしていくうりるにあーぎるうるいくそーともくるいてことひむーさるそのあめいくきう二つくーれてきういうちをれるそんのうくるいどーさいまのまんとの

▲よく祇園のまるやまへ
きてくまのいるに
何とうくをれいき、をふくく
まろ〳〵いるひとれいてとつして
つまやしてさきとやくへりもちの
さくにやくくにのふちくのくらいの
やりにそうさもくとをる日
谷祇にわくてやうこてるれい
さくうるるもるりくとるの
もくとーきてうしるうかい
とくくつけてやるへるれい
うのうきくるもるれ祇し


大極上酒山
大極天福伏
合新上吉伏
大阪
大阪
大阪

難波
西津
照庵の光景
まつのつぼね

山東京山作
歌川國貞畫